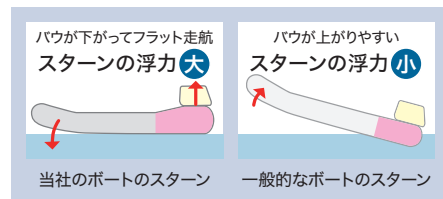


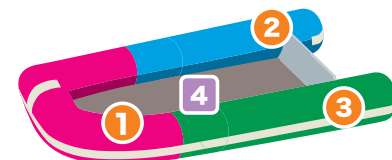
4 ボートをフラットに走航させる大浮力スターン

船尾にエンジンを搭載すると、重さでスターン（船尾）が沈み込むとともに、バウ（船首）がアップし、水の抵抗を受けやすくなります。そこで、ジョイクラフトは沈み込みを防止する大きな浮力を持つスターン形状をさまざまに開発。艇姿勢をフラットに保てるので高速時の安定感を実現しました。さらに、トランサムボードを後ろに設置できるので船内スペースを広く確保できるという秀逸なデザインなのです。



5 増えた気室でプラス1の安心感

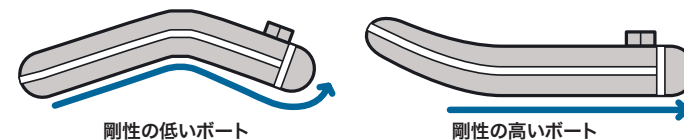
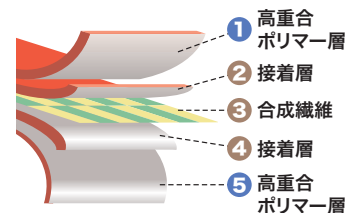
ジョイクラフトがチューブ本体3気室を市場に定着させました。3気室は、1つの気室が損傷した場合でも、必ず左右に浮力が残るため安全です。創業当時より安全性を気にし続けており、スポーツモデルのほとんどが4気室以上（エアフロア含む）、ローボートが3気室以上（板底艇除く）と、通常より気室の数を多く設定。安心感と乗り心地が違います。



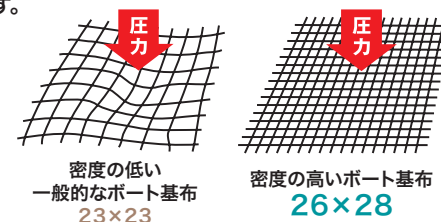
7 プレミアムスポーツクラスは強い糸が高密度

ボートクロス
26×28
1,100

ジョイクラフトはボートの大きさやエンジンの出力、用途などに合わせ、厚さ0.52～1.05mmを選択。さらに糸の密度の異なる8種類のボート布を使い分けています。2馬力クラスに厚さ0.8～0.9mm、重さ約1,000～1,200g/m²の重くて扱いにくいボート布を使うのはナンセンスです。しかし、こうした重いボート布を使用しているのが、一部を除き、マーケットの現状です。ジョイクラフトは、ボートの剛性を保つため、チューブを高圧に保持できるよう、軽くて織り密度の高い超強力なボート布を使用しています。



剛性の高いボートは走航中に大きく歪むことなく、水の抵抗も低く抑えられます。



同じ1,100デシテックスの素材でも繊維の密度により剛性は大きく変わります。



6 ジョイクラフトが育てた高圧エアフロアとキールシステム

エアフロア
100キロ
パスカル

ジョイクラフトは高圧エアフロアシステムのパイオニアです。1997年頃、日本市場では全く未知に等しかった高圧エアフロアを当社の代表が市場に紹介し、将来を予見し強力に育てあげました。それまでの重くて組み立てにくいアルミや合板のフロアに比べ、画期的なシステムとなり、その後、すべてのボートブランドが追随。現状のフロアシステムのスタンダードになりました。しかし、パイオニアのジョイクラフトには一日の長があります。100キロパスカルの超高圧、同じ内圧であっても量のように硬いドロップステッチの構造など、用途や仕様に合わせて多様・多彩に設計し提供しています。

